

1 調査の趣旨

国主導で行ったH25年度の最終調査から10年程度経過し、土砂災害警戒区域の指定が進んでいることなども踏まえ、7月から「栃木県中山間地等の孤立集落発生の可能性に関する状況調査」を行った。その結果について報告するものである。

2 調査の内容

県内の孤立可能性のある集落の把握
孤立可能性のある集落における防災対策の状況の把握
(集落内代表者の把握、情報通信手段の整備状況等)

3 調査における各種定義

- (1) 集落について
国で行った調査と同様に、農林業センサスによる農業集落「中山間地域」にある集落を基本とした。
※中山間地域（県内984集落）：農林統計上、山間地やその周りの地域、その他地理的条件が悪く、農業をするのに不利な地域
- (2) 孤立可能性集落について
集落へのすべてのアクセス道路の一部区間が、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、山地災害危険地区に隣接している。
(※アクセス道路：外部から集落まで車両でアクセスできる道路)

4 調査結果（概要）

・孤立可能性集落数は**544集落**（15市町）（H25:249集落）

○集落数の把握とともに、集落における防災対策状況のアンケートも行った。その結果は右図のとおり。
→代表者は多くの集落で把握されているが、集落内の備蓄や情報通信手段の確保、ヘリの駐機スペースの確保状況についてはいずれも実施割合が低く、平時からの備えが十分ではないことが明らかになった。

集落における防災対策状況アンケート結果（単位：集落）

項目	R6	H25
孤立可能性のある集落数	544	249
代表者等を把握	500(91.9%)	-
生活品等の備蓄あり	137(25.2%)	27(10.8%)
情報通信手段あり	172(31.6%)	36(14.5%)
ヘリの駐機スペースあり	242(44.5%)	90(36.1%)

※括弧内は、孤立可能性集落数に占める割合

5 今後の対応

今回の調査により孤立可能性集落は544集落(H25:249集落)となった。
増加の理由として、本県の土砂災害警戒区域数が増加（H26：6,685箇所→R5：9,701箇所）したことや、今回の調査にあたりデジタルの地図に土砂災害警戒区域等のデータを重ね市町に事前に提供したことで、市町の調べ方が均一に近づいたことが挙げられる。

ただし、この結果は一律の基準による画一的なものであることから、R 7 年度は孤立可能性集落対策として備蓄、ヘリ、情報通信手段に係る市町補助等を実施しながら、真に対策が必要な地域について洗い出す。

孤立可能性集落の市町内訳（R6.4.1時点）

市町名	集落数
宇都宮市	—
足利市	74
栃木市	44
佐野市	90
鹿沼市	77
日光市	45
小山市	—
真岡市	—
大田原市	24
矢板市	5
那須塩原市	16
さくら市	—
那須烏山市	17
下野市	—
上三川町	—
益子町	13
茂木町	89
市貝町	5
芳賀町	—
壬生町	—
野木町	—
塩谷町	21
高根沢町	—
那須町	18
那珂川町	6
合計	544